

令和五年度

龍谷大学付属

平安中学校入学試験問題

受験番号

国語

解答上の注意

- 一. この問題用紙は「はじめ」の合図があるまで開いてはいけません。
- 二. 答えはすべて解答用紙の決められたところに書きなさい。
- 三. 解答用紙の決められたところに受験番号を書きなさい。氏名を書いてはいけません。
- 四. 問題を読むときに、声を出してはいけません。
- 五. 問題内容についての質問は受けません。
- 六. 印刷が読みにくいときは手をあげて監督者を呼びなさい。
- 七. 「やめ」の合図があったら解答用紙をおもて向け、問題用紙を解答用紙の上に置いて、回収が終わるまで席を離れてはいけません。（問題を持ち帰ることができません）

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

人間の歴史において戦争が発生したのは、いつでしょうか。文字による記録もまだない遠い過去のことであるとしたら、それを明らかにする仕事は考古学に期待されます。「戦争がいかにして始まったか」、その※メカニズムを説明することは、「どうすれば戦争をなくせるか」という人類の未来の課題につながっていきます。考古学が社会に対してできる大きな貢献の一つです。

I、「戦争」とは何でしょうか。個人的な攻撃行動（暴力）がたくさん集まれば、「戦争」になるのでしょうか。確かに、私たちヒトがもって生まれた行動様式の中には「攻撃行動（暴力）」が含まれています。また、行動とxはセットになるのですが、攻撃行動を促進する「敵意」や「憎しみ」といった感情も、私たちの脳内に明らかに存在しています。チンパンジーとの共通祖先から今日の姿に向けての進化の※プロセスも、暴力と無縁でなかったことは明らかです。

ヒトともっとも近い生物であるチンパンジーは、※顕著な①攻撃行動を見せます。どんな攻撃行動でしょうか。チンパンジーは、十数頭から数十頭の群で暮らしています。群は、複数のオスと複数のメスからなる「複雑な雌雄集団」です。オスは、生まれた群に一生残りますが、メスは成長すると生まれた群を出て他の群に入ります。ですから、②一つの群の中のオス同士は父子・兄弟・従兄弟などで、みんな血がつながっています。こうした群の社会を背景にして、チンパンジーには二種類の攻撃行動がみられます。第一は、群の中のオス同士が、食物や、群に入ってきたメスをめぐって起こす争いです。ただ、群のオス同士のあいだには厳しい序列ができるので、この争いがみられるのは序列の変動（たとえばボスの交代）などの時だけで、

勝者が敗者の命を奪うまでにはなりません。

第二は、群同士の争いです。それぞれの群はテリトリーを持っていて、その中にある食物やメスを全力で守ろうとします。そのために、互いに血縁関係にある同群のオスたちは、敵対する群のオスたちと戦います。群のオスたちは、テリトリーを守るために、ときには隊列を組んでテリトリーの縁辺をパトロールします。その際に敵対する隣の群のオスたちと遭遇すると、激しい戦いになります。この戦いで命を落とすオスも珍しくありません。ある観察記録では、パトロール中だけではなく、敵対する群のオスが単独でいる時を狙って襲い、袋だたきにして殺してしまうこともあります。群が全滅した例もあります。

以上のように、チンパンジーのオスは、集団の中で食物やメスを争い、集団同士のテリトリー争いにも参加するという社会的環境の中で進化しました。集団内や集団同士の戦いに勝てる強い力を持った身体の大きいオスのほうが、生き残って子孫を残せる確率が高いという状況が何十何千世代も繰り返されます。このような、生物の身体を遺伝的に特定の方向に変えていく力を「選択圧」といいます。選択圧によって、③オスの身体はしだいに大型化したと考えられます（もちろん、チンパンジーの「先祖」の種の時代にすでに同じような選択圧が働き、オスはもともと大型化していた可能性もありますが）。こうして、現在のチンパンジーは、オスの身体がメスの身体よりも平均して一五パーセントほど大きくなっています。このように、オスとメスとで身体の大きさその他の特徴が異なる場合を、生物学の用語では「性的二型」といいます。「性的二型」は、オスとメスとが違った形の選択圧を受ける環境で出現します。

ヒトも、「性的二型」です。ヒトの場合は性別を超えた個体差も顕著で、これ自体興味深いことですが、それでも男性は女性よりも平均して一〇パーセントほど大きい身体をもっている

す。チンパンジーとの共通祖先の段階（約七〇〇万年前）に、すでに現在のチンパンジーと同じ程度の一五パーセントほどの性的二型となっていた可能性が高いので、現在一〇パーセントということは、以後のヒトの進化においては、オスの身体を大きくする選択圧は小さくなったのでしよう。とはいえ、ヒトの身体が他のさまざまな部分で著しく変化した（直立二足歩行や脳の大型化など）にもかかわらず、性的二型が今日まで解消していないということは、オスの身体を大きくする選択圧そのものは存続しつづけたのでしよう。

その選択圧とは、チンパンジーの場合は y でした。ヒトの場合、その進化の過程は遠い過去のことなのでチンパンジーの群のようにリアルタイムでの観察はできませんが、おそらく戦いが、オスの身体を大きくする選択圧として働いた可能性が高いでしょう。ヒトも、チンパンジーと同じ複雑な群れで、※往々にして個数のオスと複数のメスからなる複雑な群れで、※往々にして個体間の競争関係が強い）を作っていたと考えられるので、戦いもまたチンパンジーと同じように、メスの獲得や群の防衛が主要な※動機になっていたと推測されます。

II、初期（太古）のヒトの進化の過程で生じていたそのような戦いは、「戦争」とよべるのでしょうか？ いえ、次の二つの点で、「戦争」とよぶには至らないでしょう。

第一は、戦いの規模です。「戦争」は、文字記録に表れた古代の戦争でも、両軍合わせて数百人以上もの規模で行われます。チンパンジーの戦いや、そこから※類推される初期（太古）のヒトの戦いは、せいぜい十数人か数十人で行われたものでしょう。また、戦いの参加人数が少なく、戦うための集団の組織化も不完全です。

第二は、戦いの生物学的動機です。「戦争」とは何かを考えるときにはむしろこちらのほうが大切なので、少していねいに

説明しましょう。

チンパンジーの戦いにオスが参加する動機は、自分の遺伝子を残すことです。群の中での戦いに勝ち抜けば多くの食物とメスとの交配機会が得られるので、それだけ自分の遺伝子をたくさん未来に残すことができるわけです。また、群同士の戦いに参加することは、群という、自分の生きる前提となる集団を守ることなので、これも自分の遺伝子を残すことにつながります。もし、群同士の戦いの中で自分が命を落としても、そのおかげで同じ群の他のオスが生き残れば、彼らは自分の親・子・兄弟・従兄弟など濃い血縁関係をもつ個体なので、自分と同じ遺伝子の一部が未来に残っていくことになります。

生物学者の※大家リチャード・ドーキンスは、すべての生物のすべての個体（私たち一人一人も含め）は、その遺伝子を乗せて次世代へと運ぶ「乗り物」だ、と述べています。この観点からすると、チンパンジーの戦いは、それに参加することによって自分の遺伝子を次世代へと運ぶことができる、という意味で、④生物学的に合理性があるということです。

以上に述べたことをもとにして、「戦争」とは何かを、あらためて考えてみましょう。まず「戦争」とは、個人間の攻撃行動（暴力）を質的に超えた、大規模で組織的な戦いです。「質的に」というのは次のようなことです。チンパンジーの戦いや初期のヒトの戦いは、それに参加するオスにとって生物学的に合理性があるのに対し、大規模で組織的な戦いは、それに参加する個体にとって、圧倒的（あつとうてき）な多くの場合、生物学的に合理性はありません。

III、そのような戦いに参加しても、そのオスが食物やメスとの交配機会をじかに得られるわけではないため、戦いという行為が自らの遺伝子を残す結果にはなりません。また、チンパンジーの戦いならば、参加するオスはその中で命を落として

も同じ群のオスが生き残れば自分と同じ遺伝子の一部が未来に残っていくこととなりますが、大規模（数百〜数百万人規模）な戦いの場合は、オスがその中で命を落とす※^{だいしやう}代償として未来に残る自らの遺伝子の比率はゼロまたは非常に微々たるものです。

このように、参加するオスにとって生物学的に合理性がないという点で、大規模で組織的な戦いは、個人間の攻撃行動、あるいはチンパンジーや初期人類の戦いとは本質的に異なるものであつて、⑤このような戦いのみを「戦争」と呼ぶべきでしょう。

（ 松木武彦 『はじめての考古学』 ）

※（文中のことばの意味）

メカニズム …… 仕組み。

プロセス …… すじ道。経過。

顕著 …… 特に目立つようす。

往々にして …… しばしば。よくあることとして。

動機 …… 意志や行動の根拠。^{こんきよ}

類推 …… 似かよった点をもとにして、見当をつけること。

大家 …… ある専門分野で、特に優れた能力を持つ人。^{すぐ}

代償 …… 目標を達成するためにほらう犠牲。^{ぎせい}

問 1

I
Ⅲ

 にあてはまることばの組み合わせとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | |
|---|---|------|----|------|-----|-------|
| ア | I | それでは | II | つまり | III | ゆえに |
| イ | I | 一方で | II | ところで | III | また |
| ウ | I | さらに | II | ゆえに | III | すなわち |
| エ | I | ところで | II | それでは | III | なぜならば |

問 2

x

 にあてはまることばを文中から漢字二字でぬき出しなさい。

問 3 線①「攻撃行動」とありますが、チンパンジーが顕著な「攻撃行動」を見せるのは、どのような時ですか。それを説明した次の

A

 ・

B

 にあてはまることばを、それぞれ五字で文中からぬき出しなさい。

群の中では

A

 を争う時などで、集団同士では

B

 を争う時などに、顕著な攻撃行動を見せる。

問 4 線②「一つの群の中のオス同士は父子・兄弟・従兄弟などで、みんな血がつながっています」とありますが、なぜですか。二十字以内で答えなさい。句読点なども字数に数えます。

問5 ———線③「オスの身体はしだいに大型化したと考えら

れます」とありますが、なぜですか。「から」につながるように、文中から二十九字でぬき出し、はじめと終わりの五字で答えなさい。句読点なども字数に数えます。

問6 y にあてはまることばとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 進化 イ 戦い ウ 血縁 エ 集団

問7 z にあてはまる文として、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア このような戦いを、「戦争」とよぶことは、まだ難しいと思われま

す。
イ このような戦いこそ、のちに「戦争」とよばれるものへと

なっていくのです。
ウ このような戦いは、全く「戦争」と関係があるはずが

ありません。
エ このような戦いから、「戦争」とよばれるものが、生ま

れたのかもしれない。

問8 ———線④「生物学的に合理性がある」とありますが、

どのようなことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 遺伝子を作る「乗り物」を運ぶこと。

イ 敵の群の遺伝子を残さないこと。

ウ 自分の遺伝子を未来に残すこと。

エ 遺伝子を守る競争で命を落とすこと。

問9 ———線⑤「このような戦い」とありますが、どのような「戦い」ですか。最もふさわしいものを次の中から一つ

選び、記号で答えなさい。

ア 生物学的動機があり、組織化された集団が行う戦い。

イ 生物学的動機がなく、数百人以上で行われる戦い。

ウ 生物学的に合理性があり、組織的かつ大規模な戦い。

エ 生物学的に合理性がなく、十数人で行われる戦い。

問10 次は本文を読んだ花子さんとお父さんの会話です。

㉠・㉡にあてはまることばを、それぞれ文中から漢字二字でぬき出しなさい。

花子 戦争はなぜ繰り返されるのかしら。

父 難しい問題だね。本文を読んでわかることは、チンパ
ンジの例から、子孫を残そうとする㉠の本能がも
たらす戦いと、戦争は違うということだね。

花子 領土や経済的な利益を求めて、大多数で奪い合うこと
が戦争なのかな。そう考えると、戦争は㉡だけが起
こすものなのかな。

父 そうかもしれないね。

花子 ロシアがウクライナに攻撃を開始したのが二〇二二年
二月のことだから、記憶きおくにも新しいわ。どうすれば戦争
をなくせるのかなあ……。

問題は次のページに続きます。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

主人公の「僕」は、病気の治療のために服用していた薬の副作用により、十歳で体の成長がとまっていた。以下は、両親の離婚によりグランマに引き取られた「僕」が、アパートの大家であるおじさんと話をする場面である。

① どうしたんだ、坊や、そんなに興奮して」

おじさんは、コインで宝くじの番号を削る作業を中断し、チラシの方に視線を移した。僕の鼓動はAみたいに急上昇し、心臓を囲む肋骨の骨組がひび割れ、今にも崩壊しそうだった。

「クリスマス特別公演をやるらしいな」

おじさんは、藁半紙の表面を一瞬だけ見ると、さほど興味がなさそうな態度でつぶやいた。

「ねえ、場所はどの近く？」

胸の動悸をなだめすかしながら、なんとか声をしぼり出す。もしかしたら、おじさんにも僕の心臓の音が聞こえていたかもしれない。けれど、おじさんからの返事はない。

「ちゃんと見てよ」

そこには、僕の知らない単語が書かれている。

「番外地って書いてあるみたいだが」

相も変わらず、おじさんはa素っ気ない態度で答えた。

「バンガイチ？ それって、どこにあるの？」

「だから番外地は番外地だよ。住所を剥奪された土地のことさ」

それっきり、おじさんは興味を失ったのか、宝くじに集中した。こうなったら自分で調べるしかない、僕は新聞と黒砂糖

の包みを持ち、慌てて屋根裏部屋に引き返した。

サーカス、サーカス、サーカス、サーカス。

心の中でその言葉を唱えるだけで、あの時の興奮が甦った。両親に連れられ、最後に家族そろって一緒に見たのが、サーカスだった。目を閉じると、まるで録画した古いビデオテープを見るみたいに、はつきりとあの日の夜の出来事を思い出した。

屋根裏部屋に戻って黒砂糖をガラス瓶に移すと、僕はチラシの表面についた甘い粉を払い落した。それから藁半紙の角と角をきっちり合わせて折り畳み、ズボンのポケットに仕舞い込んだ。

以来僕は、グランマの作った手こねパンを咀嚼しながら、マットレスの布団叩きをしてダニを追放しながら、洗濯物を窓辺に吊るしながら、雑巾で床を磨きながら、グランマの硬い肩をもみながら、ずっとずっとサーカスのことばかり夢見るようになった。

インボイスカードという響きが、本当にべったりと頭にこびり付いて離れなくなってしまったのだ。それは、いくら舐めても永遠に小さくならない魔法のBのようで、何回でも僕の脳味噌を心地よく麻痺させた。

僕の心は、その夢の種から芽吹いた若葉や花でいっぱいに満たされ、あつという間にCと化した。寝ても覚めても、のぼせているような、ほてっているような、風邪を引いて微熱を出しているような、夢うつつの状態が続いていた。

勘の鋭いおじさんは、僕の異変に目ざとく気づき、僕が恋煩いをしているんじゃないかと指摘した。坊やにもとうとう好きな女の子ができたんだな、そんなふうに通って、うれしそうにからかった。確かにそうかもしれない。でも、相手はサーカスだった。こんな気持ちになるのは、生まれて初めて

だ。ずっと胸の奥が何かにくすぐられているようで、だけど常におなかがいっぱいで、とうとうグランマが用意してくれる山のような食事も、すべてを食べることができなくなった。それでもグランマは毎日、大量のごはんを作り続けた。

今年も、ハロウィンの一週間後にあった僕の誕生日を、グランマとおじさんが祝ってくれた。そば粉のパンケーキ、ひよこ豆のペースト、オニオンリング、林檎とクルミのサラダ、そしてオムライス。小さなテーブルには、僕の好物ばかりが並んでいる。グランマは、本当は僕が肉や魚よりも野菜の方が好きだということを知っているのだ。

ささやかだが愛情たつぷりの誕生会は、滞りなく進化した。おじさんは毎年、隣の町にある洋菓子店に特注し、豪華なデコレーションケーキを買ってきてくれる。ろうそくを十三本立てて火を灯してから、ふたりは精いっぱい声をそろえて、バースデーソングを歌ってくれた。

ふーっ。

十歳の体で、力いっぱい十三本のろうそくを吹き消した。

最後の一本がようやく消えると、辺りには蠟の溶ける少し嫌な臭いが充満した。ぜんそく気味の僕を気遣い、すかさずグランマが窓を開け、空気を入れ替えてくれる。びゅんと、冷たい北風が吹き込んできた。

「お誕生日、おめでとう」

グランマは、⑥ 感極まった声でそうつぶやきながら、スイッチを押して明かりを点けた。それからまた窓を閉め、ケーキを切り分けるためのナイフと皿を取り出そうと、食器棚に手を伸ばした。バタークリームたっぷりのデコレーションケーキは、僕よりもむしろ、グランマを大いに喜ばせる。

③ 今ここで言わなければ、この屋根裏部屋から一生出られなくなる。勇気という名の大きな風が、僕をぐんと

未来に押し出した。

「僕、サーカスに入ろうと思ってるんだ」

十三歳になっても相変わらず甲高い声が、しんと静まり返った屋根裏部屋によく響く。僕は、ずっとポケットにしまっていたレインボーサーカスのチラシを取り出し、ふたりにも見えるよう、テーブルの上に広げて置いた。

「ここに行くって決めたから。ほら、団員募集中って書いてあるでしょう」

僕は、図書館分室に置いてある辞書で何度も何度も確認した、今にも消え入りそうな小さな文字を指差した。グランマは、④ 思いつめたような無表情で、チラシの一点だけを見つめている。

「だけど坊や」

⑤ 口火を切ったのは、グランマではなくおじさんだった。

「まだ十三歳で、働かせてもらえるのかい？」

おじさんの声はいつも以上に穏やかで、落ち着き払っていた。その優しい声が、逆に不気味で恐ろしかった。

「年齢制限は書いていないよ。だからきつと、十三歳でも入れてもらえると思う。それに、僕よりもっと小さい子達だって、靴磨きとか屑拾いとかして、ちゃんと働いているじゃないか。僕だけが特別じゃないよ」

反対された時の反論は、前もっていろいろと考えていた。

「それはそうだろうけど。でもこの人は、グランマはどうなるんだ？」

さつそくおじさんは、痛いところを突いてきた。でも、ここで引き下がるわけにはいかない。

「グランマには、おじさんがついてるじゃないか。それに僕は、永遠にここを出る訳じゃないし。また、会えるよ。⑤ 僕はただ……」

あふれる言葉に飲み込まれて、自分自身がおぼれそうだった。その時、グランマが言った。

「私は断じて反対だよ」

未だかつて一度も、グランマと言い争いなどしたことがない。僕は、グランマと意見が違うということに絶望した。

「サーカスって、お前、どんな所か知っているのかい？」

グランマの顔は、明らかに青ざめていた。両手を胸の前に組んで天井を見上げ、何かを必死に祈っている。

「もちろん知っているよ」

僕は続けて、両親が最後に行ってくれたサーカスのことを話そうと思った。けれど、グランマはそれをさせてくれなかった。

「あそこは、※ いかかわしい人間が集まる卑しい場所だよ。人さらいの集団に自分から飛び込むなんて、そんな馬鹿げた真似……」

グランマはそう嘆くと、いかにもおぞましい光景を目の当たりにしたかのように、忌々しそうな表情を顔中に貼り付けたのだ。

「そんな小さな体で……」

そうつぶやくグランマの声が、^⑥再び僕を奮い立たせる。覚悟を決めてグランマに言った。

「僕は、小さいからサーカスに入りたいんだ。一生、チビだからだよ。こんな体で、普通の仕事ができる訳ないだろう。どんなに大人になっても、知らない人は僕のこと、十歳の子ともだと思っただ。そんなの、悲劇だよ。僕は、悲劇のヒーローになんてなりたくない。こんな体でも、ちゃんと生きていきたい。だから、自分にできる仕事があったら、^⑦それに僕、」

そこから、自分にできる仕事があったら、堪えていた想いが涙となつていっせいに吹きこぼれた。

ふたりの前で涙を流すのは、心の底から悔しかった。けれど、止めようとすればするほど、僕の意味に反して涙がこぼれる。涙だけでなく、鼻水までが流れ、完全に堤防が決壊してしまっていた。もう、自分でも収拾がつけられない。

「坊や」

おじさんは、泣きじやくる僕の背中を優しく撫でた。いつだって、おじさんの手のひらはふかふかと柔らかく、温かい。^⑧その温もりが、ますます僕を孤独にする。僕はただ、グランマを助けたのだ。グランマが僕を助けてくれるように、僕だってちゃんと自立してグランマの力になりたい。それだけなのだ。

（小川糸 『サーカスの夜に』）

※（文中のことばの意味）

藁半紙 …… わらを原料とした紙。

剥奪 …… 無理に奪うこと。

ビデオテープ …… 音声ならびに画像を記録、再生するための磁気テープ。

咀嚼 …… 食物を細くなるまでよくかむこと。

恋煩い …… 恋するあまりの悩みや気のふさぎ。

いかかわしい …… 道徳上好ましくない。

問 1

~~~~~線①~~~~~線②~~~~~線③のことばについて、文中における意味として最もふさわしいものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 素っ気ない

ア ずうずうしい  
ウ 思いやりがない  
エ 素直でない

② 感極まった

ア 非常に感激した  
ウ 感謝の意を込めた  
エ 疲れをにじませた

③ 口火を切った

ア 気持ちを切り替えた  
ウ 会話をさえぎった  
エ 話を始めた

問 2

A C にあてはまる最もふさわしいことばを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア キャンディ  
エ ジャングル  
イ ジェット機  
オ コンピューター  
ウ ハンバーグ

問 3

——線①——線②——線③「どうしたんだ、坊や、そんなに興奮して」とありますが、「僕」は何を見て「興奮」しているのですか。文中のことばを使って、十字以内で答えなさい。

問 4

——線①——線②「うれしそうにからかった」とありますが、「おじさん」はなぜ「うれしそう」のですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「僕」が恋をするくらいに成長したと感じたから。  
イ 「僕」の弱みをつかむことができたと思ったから。  
ウ 「僕」が自分に私的な相談をしてきてくれたから。  
エ 「僕」がサーカス以外に興味を持ったと思ったから。

問 5

——線①——線②——線③「今ここで言わなければ、この屋根裏部屋から一生出られなくなる」とありますが、なぜ「今」なのです。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア おじさんとグランマがそろうタイミングは少なく、二人の許可を同時に得られるチャンスだから。  
イ 今まで対立してこなかったグランマに、あえて誕生日に反抗することで覚悟を示せるから。  
ウ 「僕」の誕生日は二人から祝福される日でグランマの機嫌もよく、話をしやすいタイミングだから。  
エ 十三歳の誕生日という大人に一步近づいた日こそ、旅立つ日としてふさわしいから。

問6

——線④「思いつめたような無表情さ」とありますが、このときの「グランマ」の気持ちとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 何とか「僕」を説得しようと言葉を探すが、「僕」の態度からその決意が固いことを感じ取り、説得を諦めるか迷っている。

イ 自分が一生懸命準備してきた誕生会を、「僕」の思いやりのない発言によって台無しにされ、腹立たしく思っている。

ウ 「僕」の十三歳の誕生日というめでたい日なのに、「僕」が得体の知れないサーカス団に入団すると聞き、受け止めきれないでいる。

エ 今まで大切に育ててきた「僕」が、自分ではなくおじさんに相談しながら家を出るという重大な決断をしてきたことに對して、がっかりしている。

問7

——線⑤「僕はただ……」・——線⑦「それに僕、」に続く、共通する内容として最もふさわしい部分を文中から十九字でぬき出しなさい。

問8

——線⑥「再び僕を奮い立たせる」とありますが、このときの「僕」の様子として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分が大好きなサーカスをグランマたちから全否定され、頭に血が上っている。

イ 体が小さいことを理由に心配するグランマに對し、自分の思いをぶつける決意をしている。

ウ 見当違いな反論をしてくるグランマに對し、自分の考えを理解してもらおうと必死になっている。

エ グランマが言いたくても言えないことを察知し、代弁しようとしている。

問9

——線⑧「その温もりが、ますます僕を孤独にする」とありますが、どういうことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア おじさんから優しく慰められることによって、自立したいという想いを二人から理解されないさみさが、かえって強く感じられるということ。

イ 味方になってくれると思っていたおじさんの反対によって、普段は優しく大好きなおじさんへの不信感が、だんだんと生まれてきたということ。

ウ 自立したいという必死の想いが二人に伝わらず、おじさんの慰めによってごまかされたむなしさが、「僕」の決意をより強めたということ。

エ 泣かないと決めていたにもかかわらず泣いてしまい、結局おじさんに甘やかされてしまったという悔しさが、なかなか消えないということ。

問10

文中の登場人物の説明としてふさわしいものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 「僕」はグランマのことを大切に思っているが、うまく伝えることができずにもどかしい思いをしている。

イ 「僕」は体が小さいことを前向きにとらえていたが、グランマの発言によって自信を失っている。

ウ グランマは「僕」のことを心配するあまり、「僕」の話聞く余裕がなくなっている。

エ グランマはおじさんが味方についてくれたことに安心し、強気で「僕」のサーカス入団に反対している。

オ おじさんは「僕」に強く言いすぎたことを後悔しており、泣いてしまった「僕」に優しく接しようとしている。

問題は次のページに続きます。

三

次の（ ）にあてはまる送りがなをあとから選び、それ  
ぞれ記号で答えなさい。

- ① 高台から、連（ ）山々を一望する。  
ア らなる イ なる ウ る
- ② 必（ ）このチームを優勝させる。  
ア ならず イ らず ウ ず
- ③ 姉に逆（ ）ことはできない。  
ア からう イ らう ウ う
- ④ 友人を疑（ ）ことはしたくない。  
ア たがう イ がう ウ う
- ⑤ 散（ ）のは得意だが、片付けるのは苦手だ。  
ア らかす イ かす ウ す
- ⑥ 実験の結果が正しいかを確（ ）。  
ア かめる イ める ウ る
- ⑦ 四月に入って暖（ ）日が続いている。  
ア たかい イ かい ウ い
- ⑧ 練習を積み重ねて、実力を養（ ）。  
ア しなう イ なう ウ う
- ⑨ また目を改（ ）てうかがいます。  
ア らため イ ため ウ め
- ⑩ 先日の交通事故で、尊（ ）命が失われた。  
ア うとい イ とい ウ い

四

次の――線のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを答え  
なさい。

- ① 足をすりむいたのでオウキユウ手当をする。
- ② この時計はビョウシンが動いていない。
- ③ ジュツゴが分かりにくい文章。
- ④ これは歴代のコウロウ者たちの写真だ。
- ⑤ ここはギョギョウによって栄えている街だ。
- ⑥ 大きな貿易船が出港する。
- ⑦ 友人から有益な情報を手に入れる。
- ⑧ あの人たちは、この町では有名な夫妻だ。
- ⑨ 絹でできたきれいな織物。
- ⑩ ゴールに至るまでの道のりは長い。

これで問題は終わりです。